

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	谷中 優樹	学校名	豊川市立豊川小学校
実施学年	小学5年生	教科	国語
单元名	本は友達		

《学びを深めたいポイント》

本実践では、子どもたちに本の読み取りや文学作品におけるテーマ、内容より詳細な要素にフォーカスした学習や探求を促し、質問や意見の共有を推奨していく。さらに、本の比較や図書室での本の選定により探求を深め、デジタルワークシートを使用して本の紹介をする活動において、クリエイティブな表現やプレゼンテーションスキルの向上を図る。

また、自己理解と他者への共感する力を高めていきます。子どもたちは登場人物の感情や行動に共感したり、自身の経験と照らし合わせたりすることで、共感力を養うことができる。読書の喜びや魅力を共有し、デジタルワークシートを通じて友達と本の魅力やおすすめポイントを共有し合うことで、読書への関心を高めることができる。

さらに、子ども同士の意見交換や議論を通じて、おすすめの相手や、おすすめポイントが異なる視点や解釈を理解し、多面的に考える力を養う。子どもたちはお互いの紹介した本に対して深い質問をしたり、異なる意見を尊重したりすることで、自ら考える力や対話力を発展させることができる。

これらの活動を通じて、子どもたちは本の魅力をより深く理解し、批判的思考力や表現力を発揮することができるようになると考える。友達に本を紹介する活動を通して、読書の喜びを感じることで、本の好きな子どもを増やしていきたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

授業の導入では子どもたちの本棚を紹介し、本の魅力や意義について話し合う。これにより、子どもたちは自身の読書体験について考え、本への関心を高めることができる。

次に、教師が作成した「発表ノート」を使用して本の紹介を行う。子どもたちは「発表ノート」を通じて本の名前と表紙、あらすじ、おすすめポイントなどを整理しまとめる。これにより、本の要素を理解し、友達と共有する機会を得ることができる。

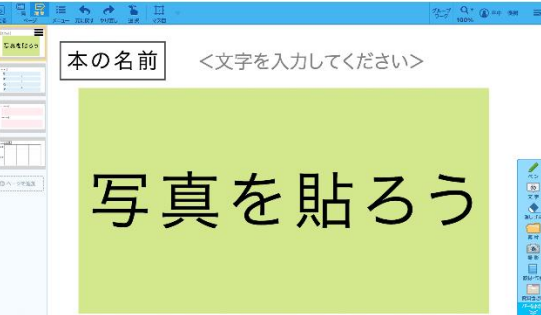
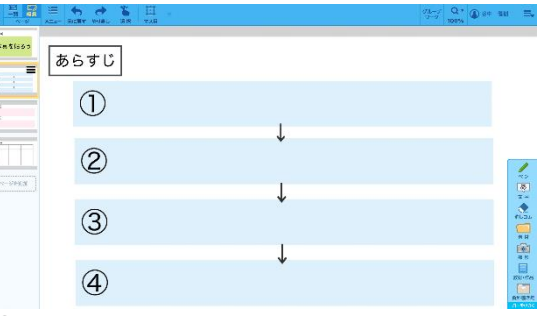
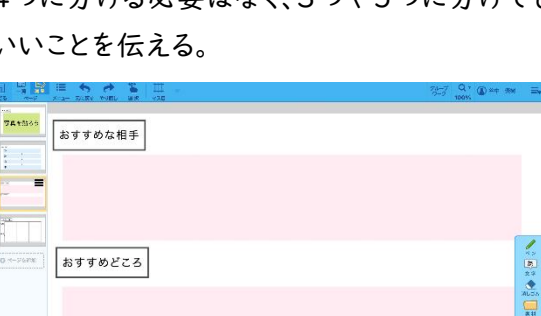
さらに、展開の段階では子どもたちは図書館に出向き、おすすめの本を「発表ノート」にまとめるための情報収集を行う。他の子どもが紹介した本に対して質問をし合ったり、意見を交換したりすることで、新たな視点の発見が可能となり、対話的な学びにも繋がる。

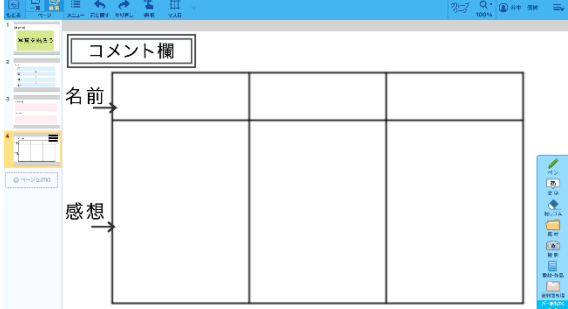
授業のまとめには、子どもに紹介された「発表ノート」に「グループワーク」を活用してコメントする活動を行う。子どもたちは友達が紹介した本に対して感想や意見を述べることで、さらなる対話や思考を深めることができる。また、「発表ノート」で共有することで、ノートで行う場合に比べて、短時間で友達の紹介する本を知ることができる。

これらのアプローチにより、子どもたちは本に対する理解を深めるだけでなく、批判的思考や表現力、情報リテラシーなどのスキルを発展させる。また、デジタルワークシートを通じて学びを共有することで、クラス全体での学習体験を豊かにする。

以上のような授業を通じて、子どもたちは本を通じた豊かな学びを得るだけでなく、読書の喜びや文学の魅力に触れることができる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. 本時の課題をつかむ。 (1) 教科書の読書体験文を読み、読書の楽しさや意義を知る。 (2) 教科書で好きな本を探して読む。 (3) SKYMENU の発表ノートを用いた本の紹介を聞く。	 教師が作成した教科書で紹介させている本を紹介する発表ノートを見せる。	☆教師が発表ノートの見本を使って、本の紹介を行います。デジタルワークシートを使って本の名前と表紙、あらすじ、おすすめポイントなどを示し、子どもたちに理解を深めさせる。
展開	2. 図書室に出向き、自分たちが選んだ本に関する発表ノートを作成する。  ① 本の名前と表紙 ② 本のあらすじ ③ どんな人におすすめか ④ おすすめどころ 4つの要素を踏まえて考える。 	 ① 本の名前と表紙  ② 本のあらすじ 4つに分ける必要はなく、3つや5つに分けてもいいことを伝える。  ③ どんな人におすすめか ④ おすすめどころ	☆発表ノートを使って以下の観点で本を紹介する。 ① 本の名前と表紙 ② 本のあらすじ ③ どんな人におすすめか ④ おすすめポイント ☆あらかじめ入力ができるように発表ノートに「文字」を貼りつけておくことで、すぐに入力ができ、イメージができるようにしておく。 ☆発表ノートにまとめながら情報を収集する。これにより、図書館での活動を通じて読解力を養う。 ☆文字を書くことが苦手な子どもでも、ビジュアルやテキストで魅力的に表現させる。

	3. 本の紹介を発表する。 ○「発表ノート」を用いて、本の紹介を行う。	テキストだけでなく視覚的な要素も活用することができる。本の表紙の画像や関連するイラスト、キャプションなどを追加することで、情報の理解や魅力の伝え方を豊かにできる。	☆視覚的に紹介を見ることで、その本に対して興味を持たせる。
まとめ	4. 発表に対するコメントをする。 5. 振り返りを行う。	 友達から感想をもらうことによって、新たな視点や解釈を提供することができる。	☆興味を持った点や共感した箇所、印象に残った場面などを具体的に挙げてコメントするように伝える。 ☆異なる角度から本を捉え、独自の視点や考えをコメントとして共有するように伝える。 ☆コメントをする際は、丁寧な言葉遣いや相手を尊重する態度を持たせる。

《実践を振り返って》

発表ノートの活用を通じて、子どもたちの読解力や批判的思考力、情報整理能力、表現力などのスキルを発展させることができた。また、子どもたちは図書館での活動や友達との意見交換を通じて協働性や対話能力を養い、他者とのつながりを深める機会を得た。

さらに、発表ノートの使用は子どもたちにとって新たな学習体験をもたらし、テクノロジーを活用した学びの魅力を実感することができた。子どもたちは情報の収集や整理、多様なメディアの活用など、デジタルスキルを磨く機会を得たことで、情報社会において必要な能力を身につけることができた。

また、子どもたちが友達の発表ノートにコメントする活動では、相互の学びと成長が促進された。子どもたちは友達の紹介した本に対して意見や質問を投稿し、対話や洞察を深めることができた。それにより、異なる視点や解釈に触れ、自身の思考を広げることができた。

この実践を通じて、子どもたちは本を通じた豊かな学びや読書の喜びを体験し、文学の魅力に触れることができた。また、発表ノートを活用することで、子どもたちはテクノロジーを使いこなす力や情報リテラシーを発展させることができた。

今後の課題としては、より多様な本のジャンルやテーマを取り入れることや、子どもたちが自身の意見や感情を表現しやすい環境づくりを考慮することが挙げられる。さらに、子どもたちがデジタルツールをより自由に活用できるような指導やサポートが求められる。

総括すれば、発表ノートを活用した「本は友達」の授業は、子どもたちの学習成果や興味関心の向上、批判的思考力や表現力の発展に寄与する有意義な実践であった。今後もデジタルツールを積極的に活用しながら、子どもたちの読書体験を豊かにし、学びの深化と成長を促進する授業の展開に取り組んでいきたい。